

2017
おもろ
チャレンジ

タンザニアの女性の健康情報共有システム調査

医学研究科 修士課程 1年

吉見 そよ香

タンザニア

2017年10月3日-

2017年11月1日



渡航概要と内容

約1か月間のタンザニア共和国生活で、日本では見られない妊婦が複数人で共同体を作り助け合いながら産前産後の生活を送り出産に関わる情報や活動の共有、女性の健康問題を互助するタンザニア特有の現場を訪れました。加えて現地の医療教育大学である Kilimanjaro Christian Medical College にて月経前症候群（PMS：Premenstrual Syndrome）を始めとした女性特有の健康問題に関する知識について調査を行いました。



滞在中の出来事の中で起こったトラブルを2つ挙げます。主に、現地の方々との交流についてです。土地に馴染みのない日本人である私に対し、現地では多くの人々が声をかけて下さり、友好的に接してくれました。一方である一定数の方から、金銭的な見返りをすぐさま求められるケースもありました。日本では、他人に親切に振舞うことに対する金銭的な見返りを直接求めるような場面は仕事を除いては非常に稀であると思われます。初めこのような場面に遭遇した際、大変戸惑いました。また現地の方との交流について注意すべき点として、現地の方との連絡先の交換です。日本では、連絡先の交換は、連絡する必要がある用件や万が一の事があった場合に使用されるケースが一般的であると思われます。一方タンザニアでは、送り主が連絡を取りたいときに送るという文化であり、それが例え相手の返答がなくても何通もメッセージや電話をかける事が多々あると知りました。連絡先を交換した以上、その頻繁な連絡を取りあう事へのある程度の同意とみなされる事もあり、すべての連絡に応じた返信がないことへ疑問を投げかけられた際に驚

きました。

このようなトラブルに対して私は、以下のように対処しました。まず、金銭的な見返りを求められる事に対しては、親切に対する感謝の気持ちを金銭ではない、相手にとって価値あるモノや事を提供することで対応していきました。相手にとって価値あるモノやこととして、日本文化の発信を主に行いました。具体的には日本食の提供や日本の風景の紹介、折り紙や書道のやり方、平仮名・漢字の書き方のレクチャー等を行い、直接的な金銭のやり取りを挟まない関係性を築くことが出来ました。また、頻繁な連絡に対しては、次連絡が取れるこちらの予定を事前に相手にしっかりと伝えていくことに努めました。予定を伝えていたにも関わらず、変わらず頻繁に連絡をくれる事がしばしば起こっていましたが、すべての連絡に対する返答がない事を咎められる事なく関係性を構築していくことができるようになりました。

渡航を通じて感じたこと・学んだこと

今回の渡航目的としていたタンザニア特有の現場を訪れる事にあって、現地人と友好的な関係性を築けたことが、大きな功を成してくれたと感じました。会うたび毎の挨拶を欠かさず、休日には相手の家族ぐるみで街へ共に出かけ、家を訪れ食事を振舞ってくれたお礼に今度は日本食を作って提供したりと交流を深めることで、信頼できる現地の友人が出来ました。彼女の全面的な協力のおかげで、妊婦の集う場所に訪問した際本来なら外国人である私の存在を訝しまれる可能性も大きいと考えられる状況を、現地の友人の知り合いを訪れる事が出来、周りの妊婦との会話も生まれ、1人では到底得られなかった情報まで得ることができました。更に、予定していた訪問先に加え、新たに紹介してもらった訪問先にも伺えたことも予想以上の収穫となりました。今回の渡航を経て、異文化に対する敬意と日本の文化を興味深く伝えられる力は、海外生活での心強い協力者を引き寄せるきっかけになると体感しました。

また、大学での調査を行っていく中で、先生方と個人的な興味や問題意識について議論を交わしていった結果、Kilimanjaro Christian Medical Collegeの大学教授より今後一緒に共同研究を行いたい、という申し出を頂きました。今回の渡航で対象地の現状の把握を行っていたため、今後啓発活動を通して得られる変化を追う際に現地大学教授の協力は非常に心強いと考えられます。自分の興味・関心について熱意を持って伝える姿勢は、万国共通で協力者を得るために欠かせない姿勢だと体感しました。



■ 今回の経験をどのように今後生かしていくか

この度渡航で体験できた文化の違いや、異文化に接した時に生じたトラブルに対処する方法の導き方を、今後新たな環境に身を置く際や、前提状況の違うコミュニティへの接触を図る際に応用し、自身の成長に繋げていくと同時に、同じ志を持つ後輩達に伝えていくことで経験としての価値を最大限に高めていきたいと思っています。そして今回の渡航を経て頂けた貴重なご縁を、今後も継続して発展させていけるよう、帰国後も引き続き積極的に現地と連絡を取っていきたいと思っています。このようにして、今回のタンザニア渡航により得られた経験・人脈を大切に、今後の研究生活に繋げていけるよう励んでいきたいと思っています。

■ 今後本プログラムを希望する学生へのアドバイス

自身の経験に基づいたものの中でも、特に過去に留学経験がある一方で、今回が初めての調査目的としての渡航になるという方に向けたアドバイスを記載させていただきます。今後の参考にして頂ければ幸いです。

タンザニア滞在に限ったことではありませんが、本来の目的の遂行に移るまでの前提としての、健康的で持続可能な生活を成り立たせる準備を事前に想定した上で、整えていく必要があると感じました。調査には十分な期間の確保が必要となることがほとんどで、十分な期間を無駄なく効果的に調査にあてる為には海外での安全かつ健康的な生活サイクルの確立は必須であると思われれます。今回私の滞在したタンザニア共和国は発展途上国と言われる国では、生活する際に日本で当たり前のように使っていた道具があるか否かの確認から、ない場合の代替手段の模索が必要になります。そして多くの場合、発展途上国にはまだ普及しきっていない道具の代替手段として用いられる方法にはそのコストとして、多くの時間が割かれることとなります。本来の目的である調査の為にタイムスケジュールを立てると同時に、安全で健康的な生活を確立し持続させていく為のタイムマネジメントを熟考し、経験者に助言を求めることでより実現可能な計画書を準備する事が出来ると思いました。

■ 主な奨学金の使途

*渡航費

*現地生活費・移動費

*海外旅行保険

*予防接種

*ビザ など